

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立横川東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 117人

② 算数 117人

5 留意事項

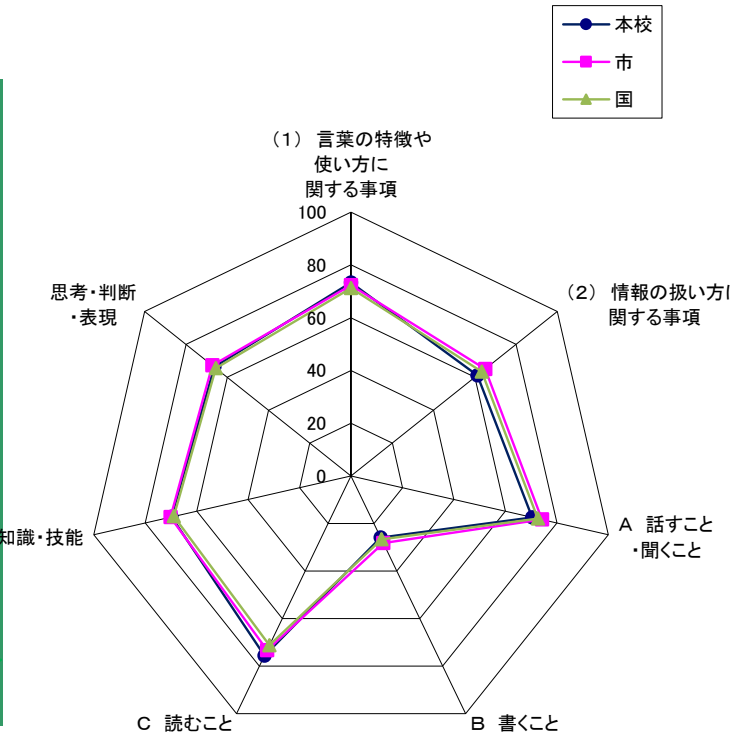
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立横川東小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	73.3	72.3	71.2
	(2) 情報の扱いに関する事項	61.2	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	70.4	74.2	72.6
	B 書くこと	25.9	28.2	26.7
	C 読むこと	75.6	73.3	71.2
観点	知識・技能	69.8	70.2	68.9
	思考・判断・表現	66.3	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

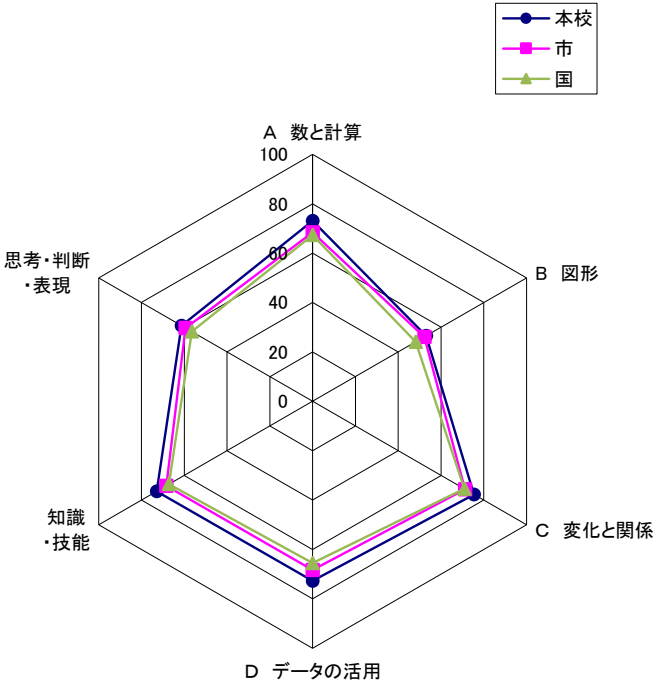
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、国の平均正答率とほぼ同じである。 ○「学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う」設問については、国の平均正答率より約13ポイント高い問題があった。 ●「日常よく使っている敬語を理解できているかどうかをみる」設問では、国の平均正答率を2ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書きの学習については、今後も繰り返し行うことで定着を図っていく。 ・敬語や修飾語の問題演習に取り組んだり、短文を作らせたりする学習を取り入れることで、言葉を文章の中で正しく使えるよう指導していく。 ・意見発表や作文指導を通して、場に応じた言葉遣いについて意識化を図る。
(2) 情報の扱いに関する事項	平均正答率は、国の平均正答率をやや下回っている。 ○「原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる」設問は国の平均正答率を4ポイント上回った。 ●「情報と情報を関連付けの仕方、図などによる語句と語句の関係の表し方をみる」設問では、国の平均正答率を9ポイント下回った。	・カードや付箋紙、ICTを効果的に活用して、原因と結果など情報と情報との関係について理解できるような授業を実践する。 ・作文やポスターの作製を通じて、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解できるように指導する。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、国の平均正答率をやや下回っている。 ●「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる」設問では国の平均正答率を5ポイント下回り、正答率も65.5ポイントと低かった。	・今後も授業において、話し合い活動を意図的に設け、やり取りをする時間を確保していく。また、適宜、伝え方や聞き方についても指導する。 ・自分の意見をもたせ、伝えたいことが明確に相手に伝わるように、言葉の選び方や文の構成の仕方を考えさせる場面を設定し、分かりやすく伝える力を育てるようにする。 ・話し合う場では、自分の意見と比較して話を聞くことが意識できるよう声掛けをしていく。
B 書くこと	平均正答率は、国の平均正答率とほぼ同じである。 ●「図表やグラフを用いて、自分の考えが伝わるように書き方を工夫して表現する」設問については、正答率が25.9%と低かった。 ●無回答率が12ポイントの設問があった。	・文章を書く学習の際には、推敲したりお互いに読み合ったり感想を伝え合ったりすることで自分の文章の改善点に気付いたり友達の文章の良さに気付いたりできるようにする。 ・作文指導の中で、字数や段落数など条件を設定して文章を書く活動を取り入れることで要点をまとめて文章が書けるよう指導していく。 ・未回答が多いことから、短い時間や文字数で作文する活動を通じて、書くことへの抵抗感を軽減したり自信を持たせたりする。
C 読むこと	平均正答率は、国の平均正答率をやや上回っている。 ○「目的に応じて、文章と図表を結び付けて必要な情報を見つける」、「文章を要約する」設問については、どちらも国の正答率より6ポイントほど上回っている。	・事実と感想、意見などとの関係を理解させ、叙述を基に文章全体の構成を捉えて要旨を把握できるようにする。 ・説明や解説などの文章を比較するなどし、分かったことや考えたことを話し合ったり文章にまとめたりする活動を通じて、必要な情報の見付け方について指導していく。 ・複数の本や新聞を読み、調べたり考えたことを伝え合う活動を通じて、自分の考えを広げる力を高めていく。

宇都宮市立横川東小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	73.1	68.4	67.3
	B 図形	53.0	52.2	48.2
	C 測定			
	C 変化と関係	75.4	71.2	70.9
	D データの活用	72.7	68.3	65.5
観点	知識・技能	72.9	68.4	67.2
	思考・判断・表現	61.3	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、ほとんどの設問において、国の平均正答率を上回っている。 ○「 $(151+49) \times 3 + 151 \times 3 + 49 \times 3$ を計算したり、分配法則を用いたりして答えを求める」設問や「運動カードから、運動した時間の合計が30分以上である日数を求める」設問では、国の平均正答率より9.5ポイント以上上回っている。 ●「2種類の辞典を全部並べた長さを求める二つの式について、それぞれどのようなことを表しているのかを選ぶ」設問では、69.0%と国の平均正答率をやや下回っている。	・朝の学習や授業中、家庭学習におけるプリント、ドリル学習などで計算の反復練習を継続して実施し、計算力のさらなる向上を図る。 ・学習内容を実生活と関連付け、学んだことを活用できるような場の設定をすることで理解を深めていく。
B 図形	平均正答率は、国の平均正答率を上回っている。 ○「テープを折ったり切ったりしてできた四角形の名前を書く」設問では、平均正答率が90.5%と高い割合となった。 ●「切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのAの角の大きさを書く」設問や「テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く」設問は、国の平均正答率を上回っているが、それぞれ33.6%、25.0%と低い割合になっており、課題である。	・デジタル教科書や実物投影機などを利用し、より理解しやすい授業を目指し、指導の充実を図る。 ・少人数担当教員と習熟度別学習で、つまづきを解消することに取り組むなど個に応じた指導の充実を図る。 ・自分の考えを言葉で表すことを苦手としている児童が多いため、ペア学習を取り入れ、言葉で表現する活動を通して、考えを言葉にし書くことへ繋げたい。
C 変化と関係	平均正答率は、ほとんどの設問において、国の平均正答率を上回っている。 ○「5脚の椅子を重ねたときの高さを求める」設問では、平均正答率が全国よりやや下回っているものの、93.1%と高い。 ●「示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ」設問では、国の平均正答率より10ポイント上回っているが56.0%であり、また無回答率も3.4%と課題である。	・デジタル教科書や実物投影機などを利用し、測定の方法や表現の仕方を視覚的に捉えさせるとともに量を数理的に処理する手順について丁寧に指導し習熟を図る。
D データの活用	平均正答率は、国の平均正答率を上回っている。 ○「運動カードから、運動した時間の合計が30分以上である日数を求める」設問では、85.3%と国の平均正答率より9ポイント以上上回っている。 ●「二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が1日と答えた人数に着目して、分かることを書く」設問では、63.8%と国の平均正答率より7ポイント以上上回っているが、無回答率も15.5%と国の平均より高いため課題である。	・自分なりに考える習慣が身に付くように、見通しをもち筋道を立てて考えることや既習事項を基に試行錯誤することなどの方法を示し、繰り返し取り組ませるようにする。 ・表やグラフ意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、データの特徴を捉えて考察できる力を付けさせるために、様々な正式のデータの活用の問題に取り組ませるようにしていく。

宇都宮市立横川東小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○生活面では、「朝食を毎日食べている。」と肯定的な回答をした児童の割合が93.1%、「毎日同じくらいの時刻に寝ている。」と回答した割合が82.9%、「毎日同じくらいの時刻に起きている。」と回答した割合が92.3%という結果で全国の肯定的割合とほぼ同じである。基本的な生活習慣が身に付いている児童が多いことが伺える。

○学校生活に関しては、「学校に行くのが楽しいと思うか。」という質問に対し、90.6%の児童が肯定的な回答で全国より上回っている。「友達関係に満足している。」と回答した児童は87.2%で全国よりやや下回っているが、「先生は、あなたのよいところを認めてくれている。」と回答した児童は94.9%で全国より上回り、友達や先生との信頼関係が構築されつつあると考えられる。また、「人が困っているときは、進んで助けている。」と回答した児童が93.1%、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ。」と回答した児童が97.4%、「人の役に立つ人間になりたい」と回答した児童96.6%と、思いやりの心をもって友達に接したり、学校のために働いたりしようとする児童が多いことが分かる。今後も道德の授業を中心に、よりよく生きていくための道徳性について指導していきたい。

○家庭学習では、「家で自分で計画を立てて勉強している。」と肯定的な回答をした児童は67.6%で全国よりやや下回っているが、「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間勉強しているか。」という質問で1時間以上勉強していると回答した児童が58.2%で全国とほぼ同じ、「学校が休みの日、1日当たりどれくらいの時間勉強しているか。」という質問で1時間以上が勉強していると69.2%が回答しており、16.7ポイントと全国を大きく上回っていた。個人差はあるが、家庭での学習習慣が身に付いてきている児童が多いと考えられる。

●読書に関しては、「読書は好き」という肯定的な回答をした児童は、77.8%で全国より上回っているが、「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間読書をしているか」という質問で30分以上読書をしていると回答した児童は31.5%で下回っていて低い。また「昼休みや放課後、休みの日に、本を読んだり、借りたりするために学校図書館や地域の図書館に行く。」と回答した児童は、10.3%と全国からやや下回っている。読書がしたいという意欲を高めたり、読書ができる環境づくりに力を入れていきたい。

●授業への取組については、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と肯定的な回答をした児童は82.9%で、全国とほぼ同じ結果だった。「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。」と回答した児童は70.1%、「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしている。」と回答した児童は74.3%と下回っていた。授業の中でペアやグループ活動を工夫して取り入れることで、自分と友達の意見を比較しながら考えたり、友達の意見を踏まえて自分の考えを深めることができることの楽しさや達成感を感じている児童が多いと考えられる。今後も、話し合い活動の目的を明確に示したり、つなぎ言葉を用いたりして、話し合いの質の向上を図っていききたい。また自分の学びを見直し、振り返りをしながら学んだことを生かせるような場の設定や声掛けをしていきたい。

○国語や算数、英語の学習に関して、「勉強は大切。」「将来、社会に出たときに役に立つ。」と回答した児童が9割を超えている。さらに関心・意欲を高める教材・教具の工夫や授業展開を図っていききたい。

宇都宮市立横川東小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業改善	・問いをもたせたり、興味関心を高めたりする導入の工夫 ・問題解決の見通しをもたせる活動の設定 ・自分の伸びや変化を自覚できる振り返り活動の実施 ・主体的・対話的で深い学びを実現するICTの効果的な活用	「勉強は大切。」「将来、社会に出たときに役に立つ。」と回答した児童が9割を超えている。「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。」の項目での肯定的回答割合は、県・国とほぼ同じであった。「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしている。」と回答した児童は74.3%と下回っていた。
・基礎基本の確実な定着	・「朝一学習」（火・木・金曜日の15分間）の実施 ・学期ごとの漢字・計算オリンピックの実施 ・AI型学習ドリルを活用した個に応じた指導の充実	国語の知識・技能分野の平均正答率は、68.8%で県・国とほぼ同じである。算数の知識・技能分野の平均正答率は、県・国を上回っている。
・家庭学習の習慣化	・「家庭学習の手引き」の効果的な活用 ・発達段階に応じた家庭学習の内容や分量の検討と指導	「家で自分で計画を立てて勉強している。」と肯定的な回答をした児童は67.6%で全国よりやや下回っているが、休日1時間以上勉強していると回答した児童は、69.2%で全国を大きく上回っていた。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
目的や意図に応じて考えをまとめたり、自分の考えが伝わるように書き表したりする問題では、県や国の平均正答率よりも低いものがあった。	・自分の考えを書く活動のさらなる充実	・文章全体の構成や書き表し方の再確認と指導の工夫 ・家庭学習の機会を活用した定期的に書く活動の充実 ・自分の考えを書く活動の習慣化と自分の考えをもたせるための支援 ・ペアやグループ、全体での学び合いの場の設定の工夫